

平成 27 年度ユニバーサル邦楽吟詠会北関東地区本部研修会に参加して

猪瀬凱鷲

標記研修会が平成 27 年 6 月 21 日に栃木県壬生町の中央公民館において午前 10 時から開催されました。

この研修会の目的とするところは、来月の 19 日に開催されるユニバーサル邦楽吟詠会北関東地区オーデションに向けて講師の先生方から適切なアドバイスをいただくことにありました。

出席者は講師の先生 5 名、尺八伴奏の先生 1 名、受講者 13 名、聴講者 3 名、会計 1 名の合計 23 名でした。

開会の辞のあと、北関東地区本部長の鈴木凱悠先生のご挨拶、野中琴風先生の本研修の目的並びに研修上の留意事項、特にアクセントにとらわれないことと言葉をはっきりと伝えるように、等の説明がありました。

この後、田中竜真先生によるスライドを使つての詩吟の歴史等に係る講義がありました。

講義の主たる項目は、

詩吟の隆盛の時期。自分にふさわしい本数。裏声。低音の鍛え方。節調。詩吟と呼吸。吐くことへの意識（呼吸は吐くこと）。言葉は読み下し。余韻の変化で感情を表現すること。歩き方。手の位置。発声。発音。渡り。鼻濁音。第一声の重要性。

等々でした。

続いて研修会に入りました。

研修会では、12 名の受講者（他 1 名は辞退）がそれぞれオーデション課題吟を緊張の内にも朗々と吟じ切りました。そのあと、講師の鈴木凱悠先生、関根峰月先生、野中琴風先生、下重凱楊仙先生、田中竜真先生からそれぞれ受講者に対して適切なアドバイスがありました。

その中での主なアドバイスを記載しますと、

言葉を聞かせること。素読をしっかりとすること。声は正しく出すと裏声でなくなる。口の形が大事である。響かせる場所も大事。空気の入りを上手に。言葉に力を入れないこと。読み下しはサラリと。腹筋を使うこと。ビブラートを使いすぎないこと。喉で声を出すと声が不安定になる。お腹から声を出すこと。音程を変化させないで引張るように。詩の繋がりを大事に。戻すような切り方で。普段の声が出せるように。きちんと読むこと。的を絞って遠くへ。

等々でした。

私も、ビブラートが入りすぎる、喉で声を出すと声が不安定になる、等のご指摘を頂戴いたしました。

このあと、下重凱楊仙先生から総合講評と地区本選への激励をいただきました。

総合講評では、正確に声を出すこと。口形は正しく、口の開け方を普段から心がけること。今回は特に2回目の方が納得できる良い吟であった。

等々のお言葉を頂戴いたしました。

オーディションまであと正味1ヶ月を切りましたが、先生方から頂戴したアドバイスを全力で咀嚼し、地区本選では満足のいけるような吟を吟じたいと切望しているところです。

午後3時過ぎ、受講者の高揚感がまだ余韻を引く中、研修会は盛況のうちに終了となりました。

最期に、終始、尺八伴奏でご指導をくださいました佐藤吟琮先生、お弁当の手配や会計の心配を下さった柳澤先生に心から感謝を申し上げます。